

# めぐみイエス・キリスト教会

2023年9月24日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第675号」



## 2023年標題聖句

### 第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌358「神なく望みなく」 p. 572

【交読文】 No.34 詩篇第108篇 p. 907

【賛美Ⅱ】 新聖歌252「安けさは川のごとく」 p. 390

【使徒信条・主の祈り】

【先々週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「主と共にいつまでも」

【聖書朗読】 ルカの福音書1章69節～80節(新約p. 109下段)

【礼拝説教】 《ザカリヤの賛歌(ベネディクトゥス)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(ルカの福音書1章67節～80節)

1:67 さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされて預言した。

1:68 「ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、

1:69 救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。

1:70 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られた通りに。

1:71 この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである。

1:72 主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。

1:73 私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。

1:74 主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにし

てくださる。

1:75 私たちのすべての日々において、主の御前で敬虔に正しく。

1:76 幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、

1:77 罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。

1:78 これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、

1:79 暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」

1:80 幼子は成長し、その霊は強くなり、イスラエルの民の前に公に現れる日まで荒野にいた。

### ●ポイント1.「ご自分の聖なる契約」とは？

※創世記12章3節「アブラハムへの言葉」 (旧約p.17下段)

12:3「私は、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

※申命記18章18節「モーセによるメシア預言」 (旧約p.348上段)

18:18 私は彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。私は彼の口に私の言葉を授けよう。彼は、私が命じることをみな、彼らに告げる。

### ●ポイント2.「ヨハネへの預言」とは？

※ルカ1章15節～17節「御使いガブリエルの言葉」 (新約p.106下段)

1:15 「その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、

1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。

1:17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」

## ◎先週の礼拝メッセージ【バプテスマのヨハネの誕生】

《マリアは、3か月ほどエリサベツのもとに留まって家に帰った、とありますが、多くの学者の見解では、バプテスマのヨハネが生まれ、そして8日目の割礼の時までは、エン・カレムに留まったと考えています。

神殿において、御使いガブリエルはザカリヤに言いました。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。」』

このことが成就したのです。そして、8日目となり、人々は幼子に割礼を施すためにやって来ました。彼らは幼子を父の名にちなんでザカリヤと名づけようとしています。すると、エリサベツは、言いました。

「いいえ、名はヨハネとしなければなりません。」

「あなたの親族には、そのような名の人はいません。」

そして、幼子にどういう名をつけるつもりか、ザカリヤに尋ねますと、彼は書き板に、「その子の名はヨハネ(主は恵み深い)」と書いたもので、人々はみな驚いたと言うわけです。その時、ただちに彼の口が開かれ、舌が解かれ、ものが言えるようになり、神を誉め讃えたのです。

近所に住む人たちは、皆その場において恐れを抱きました。そして、これらのことの一部始終が、ユダヤの山地全体に、つまりエン・カレムの町中に広まって行ったのです。

その話を聞いた人たちは皆、「いったいこの子は何になるのでしょうか。」と言いました。この時から約30年後のことです。彼らはその答えを明確に知ることになります。

皇帝ティベリウスの治世の第15年(紀元27年9月もしくは10月)に、バプテスマのヨハネによる悔い改めのメッセージが、ヨルダン川流域において始まるのです。主イエスの出現の前備えとして。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、10月1日(日)です。通常通り行ないます。